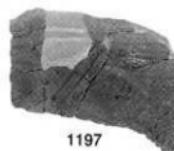


図版  
13



951



1197



956



954



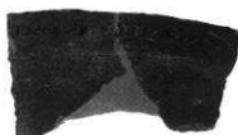
953



1348



955



952



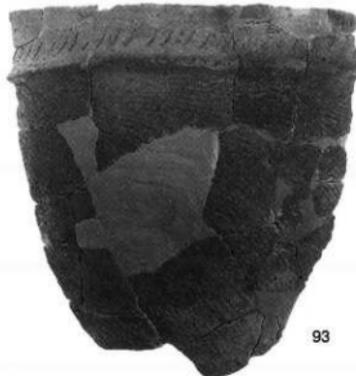
1342



2045



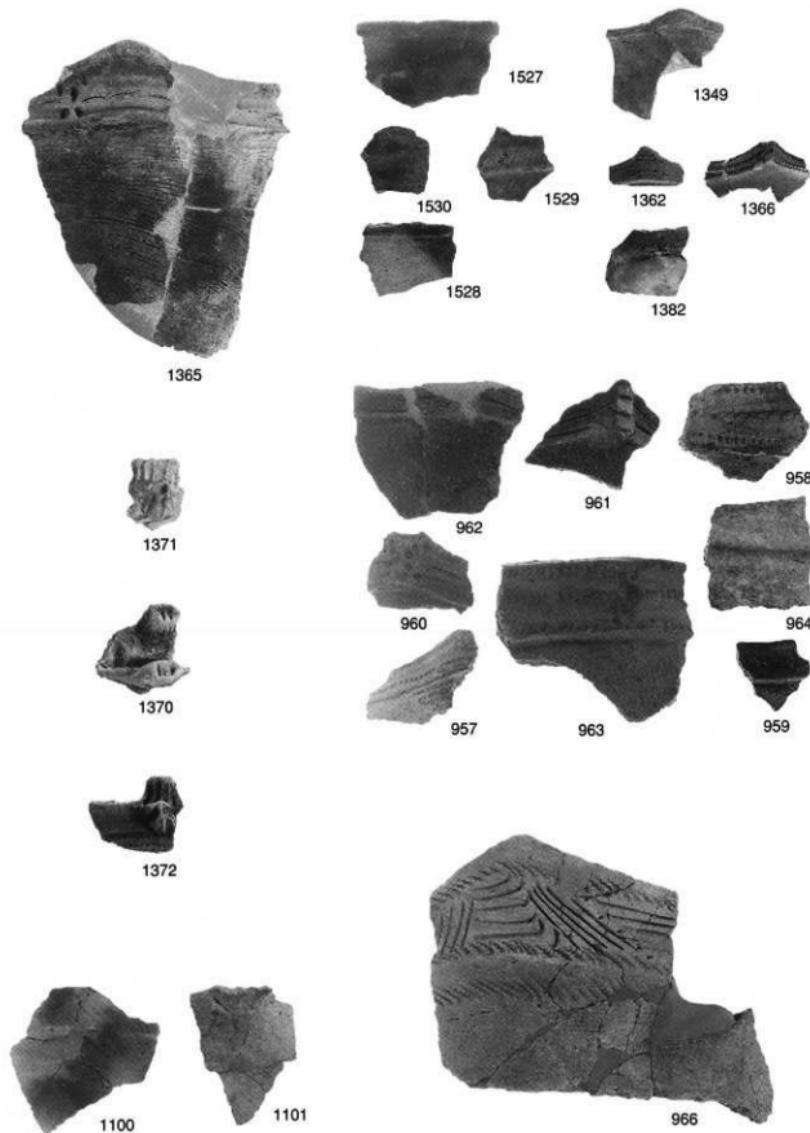
342



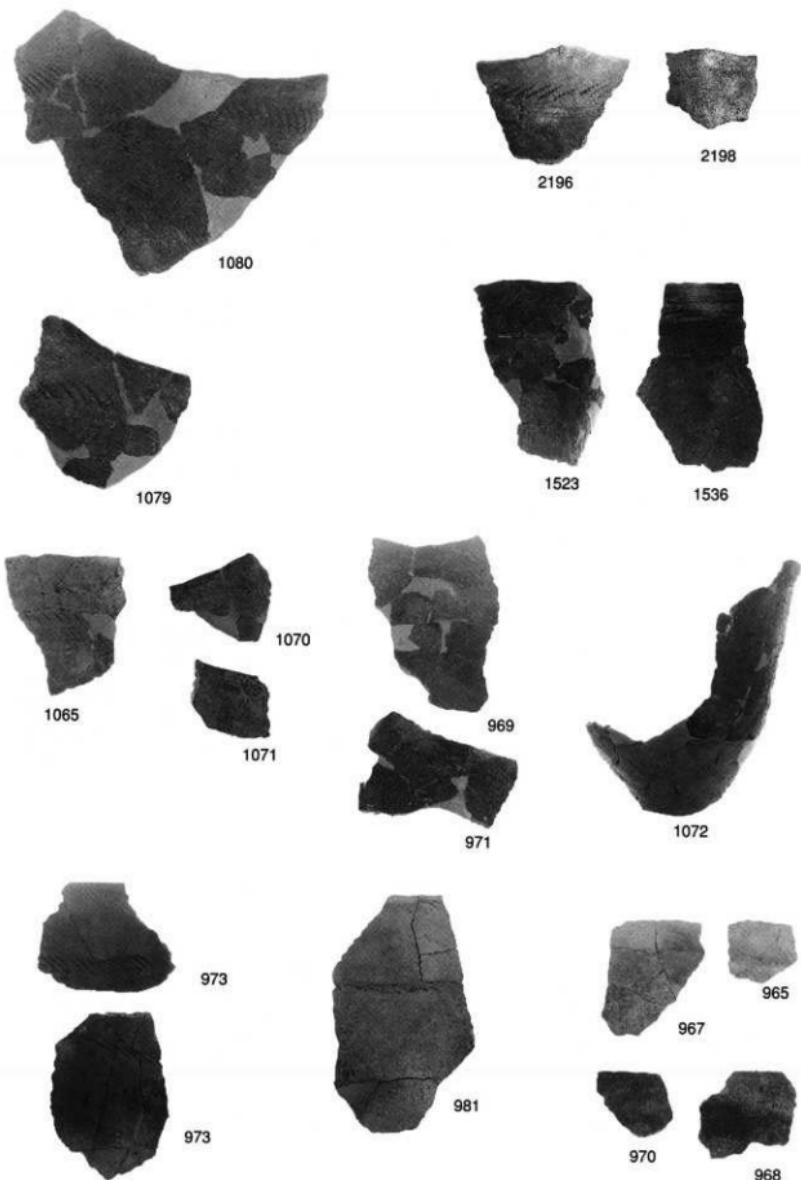
93

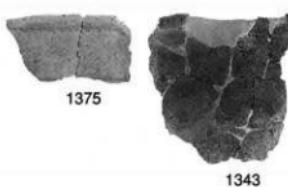


1787



図版  
15





972

1375

1343



974

985

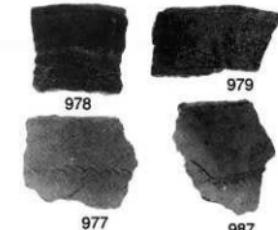


976

980



1481



978

979

977

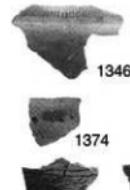
987



975



982



1346

1374



1373

1376



1064



1063



1002



1466



1475



1262



1265



1266

1287



1259



1256



1281



1264



1277



1285



2035



1282



2207



2217



2212



2219



2219



2216



2218



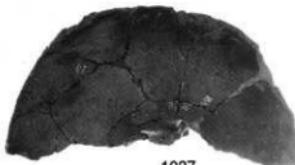
1396



1396



1038



1027



1027



1119



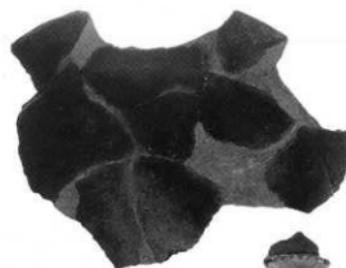
3775



3726



1821



2237



2261



2259



2260



2264



2287



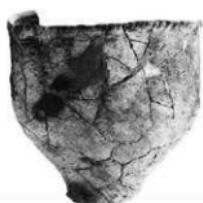
2263



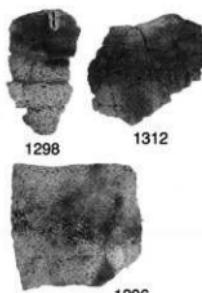
830



1820



1650



1298

1312



1305



1315



1310



1304

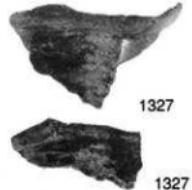


1331

1307



1314



1327



1311



795



1326



1334

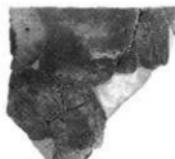


1321



1324

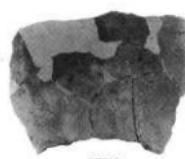
図版  
21



1316



1322



1596

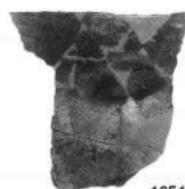


1602



1601

1621



1654



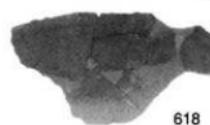
436



619



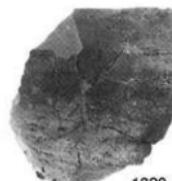
620



618



1175



1320



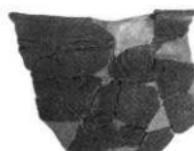
1329



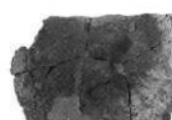
1323



1336



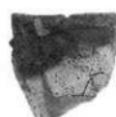
1191



1318



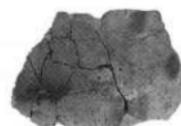
1306



1317



1333



1341



586



2518



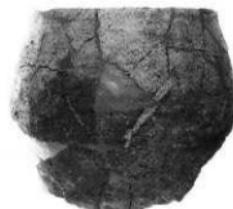
1319



1330



1420



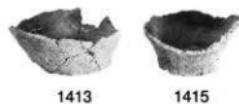
1513



242



1441 1412 1442



1413 1415



1414



870



1444



1397



1395



2294



2290



2291



2293



2296



2292



2211



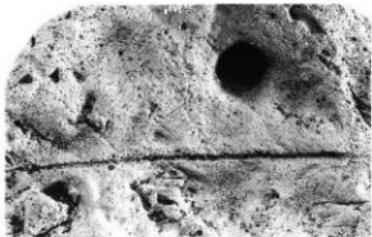
犬頭形土製品



1039



2295



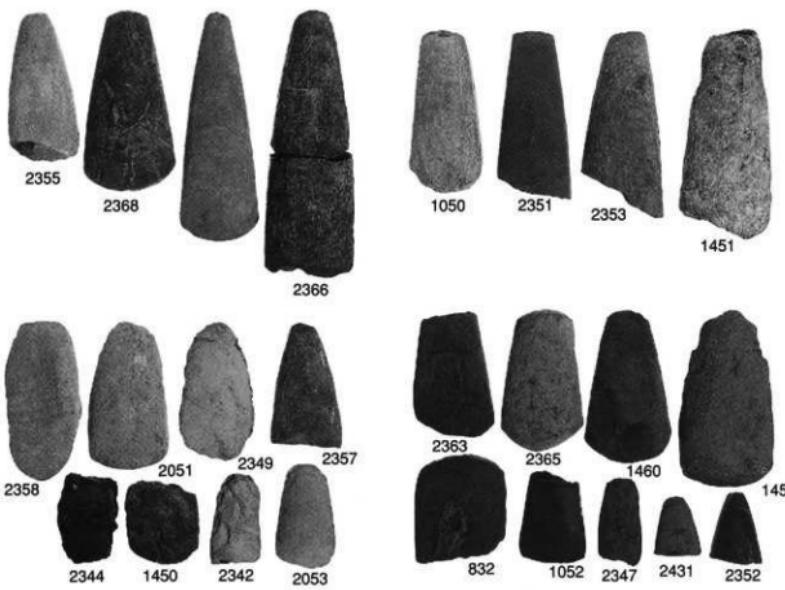
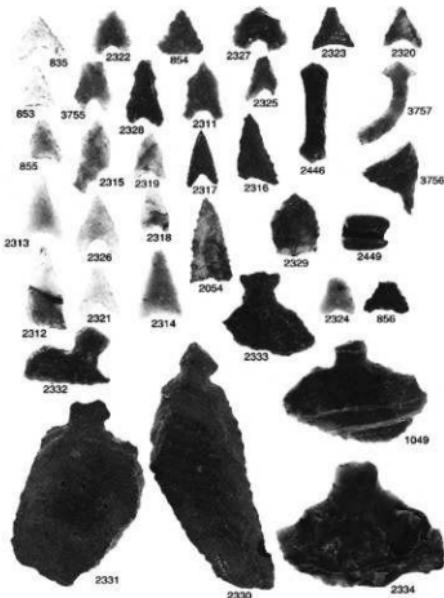
土器底面の堅果類圧痕

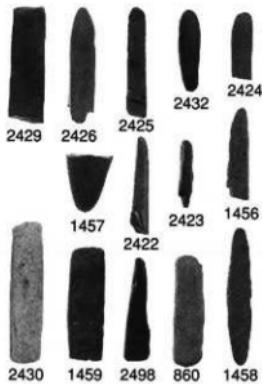
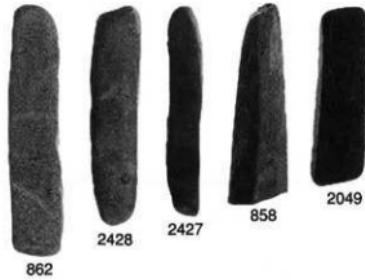
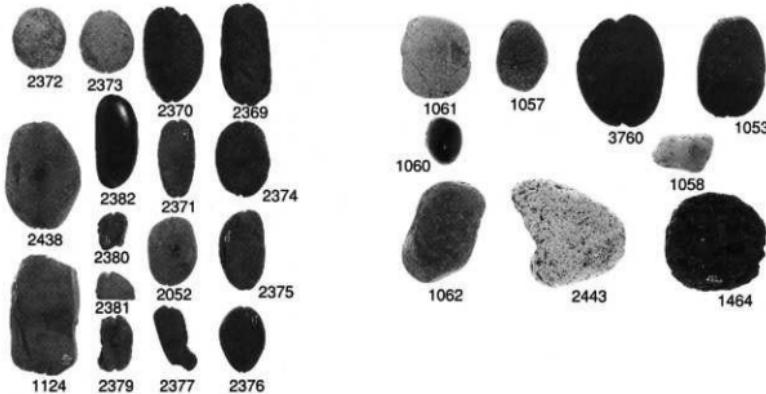


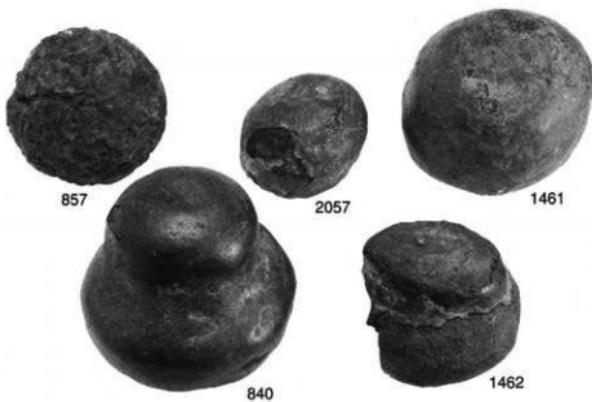
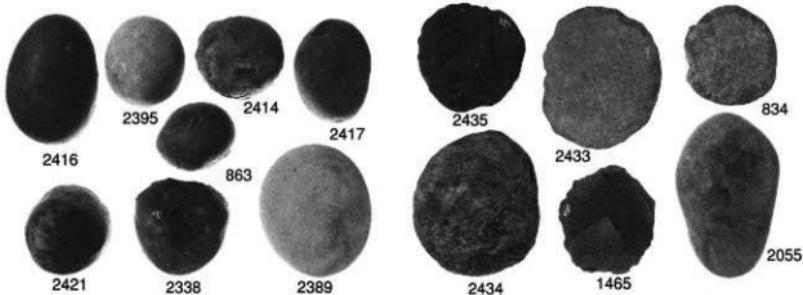
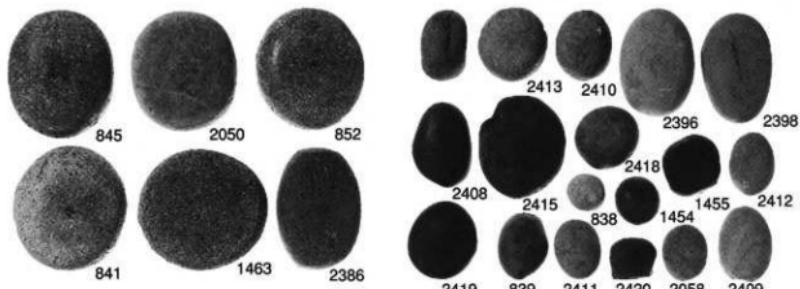
土器底面の網代痕

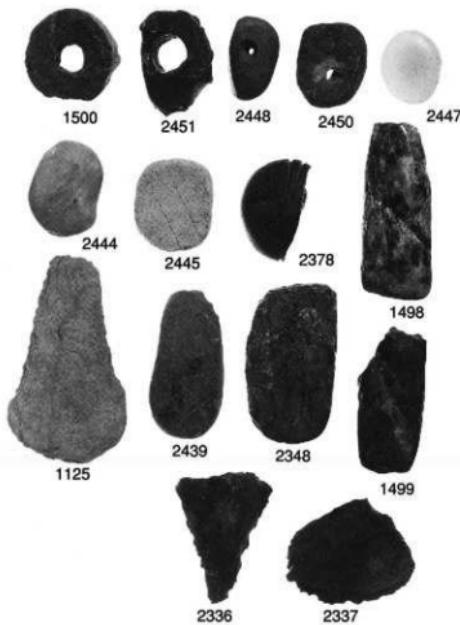


土器底面の二枚貝圧痕









抄 錄

ふりがな	もとのばるいせきさん
書名	本野原遺跡三
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書(田野町文化財調査報告書)
シリーズ番号	第53集
編著者名	森田 浩史・金丸 武司
編集機関	宮崎市教育委員会
機関所在地	〒880-0805 宮崎県宮崎市橘通東1丁目14番20号 電話番号 0985-21-1836
発行年月日	2006年3月 所取遺跡名 本野原遺跡
遺跡所在地	宮崎県宮崎市田野町字黒草原
市町村コード	遺跡番号 2006
調査期間	本調査:平成13(2001)年4月26日~平成14(2002)年2月4日
調査面積	約18,000m <sup>2</sup> (うち調査終了部分約12,000m <sup>2</sup> )
調査原因	農業関連
主な時代	後期旧石器時代、縄文時代早期、前期、中期、後期、晚期、古代、中世
主な遺構	縄文早期:集石遺構 縄文後期:堅穴住居、竪穴造構、中央配石、堅穴状造構 環状土坑群、環状掘立柱建物群、列状掘立柱建物群 土器窯窯場、道路状造構、埋甕、ピット 古代:堅穴住居、掘立柱建物 中世:掘立柱建物
主な遺物	後期旧石器時代:台形(様)石器、ナイフ形石器、剥片尖頭器、細石核 縄文早期:加栗山式、小牧3A段階、押型文、桑ノ丸式、平格式、寒ノ神式 縄文前期:曾畠式、上水流Ⅲ類、深浦式、羽鳥下層式 縄文中期:並木式、阿高式 縄文後、晚期:宮之迫式、本野原式、出水式、市来式、九尾式、納屋向式 阿高式、宿毛式、縄帶文土器、小池原上層式、鍾崎式 北久根山式、納曾式、中岳式、西平式、入佐式、黒川式 台付皿形上器、土器片錐、メンコ、火頭形上製品 石鏃、磨製石斧、打製石斧、石匙、磨石、石皿、切目石錐 玉斧、石棒、人珠、小玉、石棒、ノジュール 古代:布痕上器、内里上器、須恵器、上器器、縄胎陶器 中世:洪武通宝
要約	旧石器時代から中世に至る幅広い時期の遺物が出土し、この地に継り返しが訪れ、生活を行った事が明らかとなった。中でも特筆すべきは、縄文時代中期後葉から後期後葉にかけて形成された、膨大な遺構群である。径80~100mに及ぶ土層の消失と、南東斜面における土器窯窯を含む土層堆積は、人為的に整地を行った結果と考えられる。これは、東日本の拠点的集落に見られる「大土木工事」と同じ構造であり、西日本では初の検出例となった。この土層消失部の中央付近には、大型の礫が円形に配された「中央配石」があり、その周囲には、台付皿形上器等特殊遺物を多く出土した堅穴状造構が配されていた。更に削平ラインに沿って、掘立柱建物が環状に展開していた。掘立柱建物は、調査区北側からも確認されたが、こちらは尾根に沿って列をなしていた。堅穴住居は、主に削平部の外側に分布しており、軒数は113軒と、西日本の縄文集落としては最大規模である。これ以外にも、焼地部より南北に伸びた道路状造構や、九州としては最古クラスとなる埋甕など、縄文時代を特徴付ける遺構が集中した遺跡といえる。出土土器は、土器窯窯場や遺物包含層をはじめとして膨大な量に及び、既存の上器編年の空白や矛盾を埋める資料として注目される。一方、石器の出土も多かったが、磨石や磨製石斧は多い反面、剥片石器はごく僅かであり、組成は偏りが見られる。

宮崎市文化財調査報告書  
(田野町文化財調査報告書 第53集)  
**本野原遺跡三**

発行年月日 2006年3月  
編集・発行 宮崎市教育委員会  
〒880-0805 宮崎県宮崎市橋通東1丁目14番20号  
Tel. Fax. 0985-21-1836  
印 刷 小柳印刷株式会社  
〒880-0803 宮崎県宮崎市旭1丁目6-25  
Tel. 0985-24-4155 Fax. 0985-24-1512